

誇りのもてる

住んでよかった

丹波市

— 平成 25 年度 丹波市施政方針 —

丹(まごころ)の里



丹波市

はじめに

平成25年第65回丹波市議会定例会の開会にあたり、議員の皆様のご健勝をお喜び申し上げますとともに、日頃のご精励に敬意を表する次第でございます。

本日、ここに、平成25年度予算案及び諸案件のご審議をお願いするにあたりまして、市政運営に関する基本的な考え方と主要な取り組み内容の概要についてご説明を申し上げまして、議員の皆様をはじめ、市民の方々のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、先の定例会の所信表明で申し上げましたが、歴史に類を見ない、私たちがかつて経験したことのない少子高齢化、人口減少社会を迎えた今、丹波市も大きな転換期にあると言え、成熟社会にふさわしい新たな社会システムの再構築が必要であり、果敢にチャレンジしていかねばなりません。若者が夢を持てる、元気で魅力あふれる丹波市を目指し、また、女性や高齢者が生き生きと活躍できる地域社会にしなければなりません。

一方、本市を取り巻く状況は、依然として厳しく、予断を許さな

い課題が山積しております。

第2次総合計画の初年度である平成27年度以降は、一般財源が大幅に減少するため、行政サービスやその水準の見直しなど更なる行財政改革の推進を図り、多様な市民ニーズや社会情勢の変化に対応できる行財政構造を構築することが必要です。

経済のグローバル化、高度情報化、少子高齢化、地方分権社会への対応など多種多様な施策を限られた財源の中で効率よく効果的に取り組んでいかなければなりません。

私は、市長就任以来、市政運営に一番大事なものは、市民の皆様との信頼であると考え、市政に対する多くの声をお聞きする中で、心の合併や地域づくりなど、参画と協働のまちづくりを推進してきました。また市の総合計画に基づき、水道施設統合事業や、幼保一元化事業、安全安心のための河川整備や学校施設建築物の耐震化、地域経済活性化のための企業誘致、誘客のための観光パブリシティ事業、福祉施策と連携した公共交通体系の整備など、様々な施策に取り組んでまいりました。

このような市の動きに連動する形で、地域活性化や地域課題解決に

向けた取り組みが各地区で始まり、また商店街の活性化に向けた市（いち）の開催や農業分野での新たな企業の参入、大規模な牧場計画など、市の活力やブランドイメージの向上に大きく寄与する取り組みが生まれつつあります。

私の 3 期目は、これまで 2 期 8 年間で取り組んできた様々な施策の総仕上げを行い、市政の基盤づくりを着実に進めたいと考えております。

さらに、市政の基盤づくりを考えた時、若者の発想を柔軟に取り入れる体制や現場を担う職員の発想力を最大限に引き出す職場環境づくりが極めて重要であり、職員によるプロジェクトチームや若手の農業者、市民グループなどとの意見交換など、様々な機会を設け市民から信頼される行政の展開を積極的に進めていきたいと考えております。

一方、国政においては、昨年 1 2 月の衆議院選挙で政権が交代し、本年 1 月に「日本経済再生に向けた緊急経済対策」が打ち出され、“3 本の矢”のもと、長引く円高・デフレ不況から脱却し、雇用や所得

の拡大を目指す日本経済再生に向けた緊急経済対策が決定されたところでは、

丹波市におきましても、この国の緊急経済対策を活用して、道路や学校施設などの整備事業をはじめ、ライフラインである上下水道や農業分野にも充当し、事業費ベースで総額 8億1千344万円を予算化し、新年度予算と合わせて元気で活力のある丹波市を目指します。

このような状況の中、平成25年度は、「誇りのもてる住んでよかった丹波市」を目指して着実な取り組みを推進していく所存でございます。

また、合併から10年という大きな節目を翌年に迎えることから、その準備にも入りたいと考えております。

重点施策

それでは、3期目のスタートである平成25年度の重点施策についてご説明を申し上げます。

本年度は、「若者に魅力ある丹波市」をテーマとし、所信表明で申

上げました5つの基本姿勢を堅持し、様々な施策の展開を図って参りたいと考えております。

第1は「安心して暮らせるまちづくり」であります。

まず、丹波市のまちづくりの基本指針である「丹波市総合計画」が、平成26年度をもって計画期間が終了することから、市民参画のもと、次の第2次総合計画の策定作業に本格的に取り組んでまいります。

最も重要な課題である少子化対策につきましては、子育て支援策は勿論のこと、住まいや雇用の場の確保など、部局を横断した総合的な施策が必要であり、若手職員によるプロジェクトチームを編成して全庁体制で検討、取り組めます。

具体的な子育て支援策としては、現在の0歳から中学校3年生までの医療費助成につきましては、これまでの入院に係る一部負担金の全額助成に加え、通院分につきましても制度を拡充し、中学校3年生まで医療費の全額無料化を行います。また、子育ての喜びや悩みを分かち合える環境を整えるため「みんなで子育て・親育ち活動補助金」を創設し、子育てのサークル活動に対する助成を行うとともに

に不妊治療を行う夫婦への支援を実施いたします。

また、認知症対策として、これまでの「早期発見SOSシステム」、
「地域見守りネットワーク体制づくり」に加え、「高齢者あんしん見
守り隊」を新たに事業化し、地域住民や市内事業者等と連携して、
徘徊する高齢者や認知症の方々の搜索、早期発見など地域における
見守り支援体制を構築します。

さらに、医療にかからない、あるいは介護が必要な状態とならな
いたための予防施策を中心に「健康たんば21計画」に実効性を持た
せる市民の健康づくりの取り組みを支援するとともに、全国的にも
珍しい睡眠に着目した「ぐっすり・すやすや運動」を強く推進して、
健康寿命日本一を目指します。

地域医療対策では、県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合に際し
て、市民が安心して医療にかかれるよう、本来提供されるべき診療
機能について、関係機関と協議を行うとともに、平成27年度の県
立柏原看護専門学校の県からの円滑な移管・運営に向けた準備を進
めます。

市民の「安心」には、防災・減災対策や風水害対策は欠かすこと

のできないものです。治水・治山事業に加えて、総合治水によるモデル事業を実施するとともに、通学路緊急合同点検に基づく安全対策を積極的に実施し、児童の安全を確保いたします。また老朽化が進む橋梁について、長寿命化修繕計画に基づいた修繕工事に着手するなど、計画的な道路整備を推進してまいります。

消防・救急分野では、消防体制の充実強化を図るため、新たに消防本部の通信指令室の増築や訓練塔を新築します。防災行政無線につきましても、国の電波法等の改正に伴い、青垣地域、山南地域でデジタル化に向けた、設備の更新に着手します。

第2は「元気で活力あるまちづくり」です。

国は、経済の再生として「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、そして「民間投資を喚起する成長戦略」を推し進めているところであり、丹波市では、この「緊急経済対策」を最大限活用して元気を取り戻すとともに、独自の施策も展開し元気で活力あるまちづくりを目指します。

また合わせて、丹波市の魅力を積極的に市内外に発信していくため、現在、公式運用している丹波市フェイスブック「ええなあ！丹

波市」をより一層活用し、市のイベント、話題、身近な情報など双方向のコミュニケーションを図りながら丹波ファンの獲得、誘客に努めます。

この情報発信強化のため、市民・学生リポーターを募集し、取材した記事や写真を広報媒体等に掲載してまいります。

新たな地域資源の活用策として、鹿をキーワードに、捕獲から解体、有効活用、処分までの一連の流通体系を確立するモデル事業として、収集分別処理施設の整備を支援するとともに、シカの搬出及び購入の経費に対する補助を行います。また、取扱店に奨励金を交付する制度を設け、シカ肉の消費拡大を図り、丹波のシカ肉のブランド化に取り組んでまいります。

農業施策では、丹波市ブランド農産物の振興を引き続き行うとともに、担い手農業者への新たな支援策として、生産から加工、販売までの一体的な経営への取組み（6次産業化）を支援するほか、これまでの新規就農支援に加え、企業等の農業参入支援を行い、新たな担い手の確保や農地の有効活用、地域の雇用創出に取り組めます。

林業施策においては、持続可能な森林経営を目指し、路網整備や高性能機械整備への補助を行うとともに、森林組合、林産センター等と連携し、低炭素社会の実現と木材の利用拡大を図るため、「木質バイオマス供給施設」の整備を支援します。

観光の分野では、新たな誘客やリピーター化を図るために観光資源の分析及び戦略的な活用を図るため観光戦略サポート事業を推進し、ブランドイメージが強い食と自然、歴史、恐竜化石等の地域資源を組み合わせた観光ツーリズムの推進に取り組みます。

さらに、市民の雇用や就業をサポートしていくためには地域の行政機関の相互連携が重要かつ効果的であるため、ハローワークの職業相談・職業紹介と市が行う就労支援事業を市役所内においてワンストップで実施する「丹（まごころ）ワークサポートたんば」を設置いたします。

第3は「歴史、文化、芸術、スポーツが息吹くまちづくり」です。

昨年、音楽プロデューサーの小林武史さんが代表取締役を務める農業生産法人「耕す」が、市島町で農地の賃貸借契約を締結され、

新たな視点で農場経営を始められます。これは、丹波市の魅力や市の取組みを情報発信してきた積み重ねによるものと実感しております。引き続き丹波市の魅力を全国に発信するため、本年9月に開催が決まりました「NHKのど自慢」を契機に、より積極的に丹波市の魅力を全国へ発信してまいります。

国内最大級の恐竜を活かしたまちづくりでは、丹波竜の里づくり計画を実施に移し、遊歩道や広場の整備に着手します。また、ちーたんの館では、恐竜頭部の立体的モニュメントや動画の制作を行うとともに、総務省の「地域人材ネット」登録者を招へいし、恐竜化石と地域資源を組み合わせたまちづくりを推進します。

大手会館（旧氷上高等小学校校舎）につきましては、市内の貴重な文化遺産を保護し、誇りや愛着を育むため、耐震対策を含めた改修工事を実施し、中心市街地活性化のシンボリックな施設としてその有効活用を図ります。

さらに、市民総ぐるみ「丹（まごころ）の里ありがとうプロジェ

クト」を推進するため、ありがとうメッセージの全国公募及び入選作品を積極的に全国発信してまいります。

「いつでも、だれでも、いつまでも」を合言葉に、スポーツに親しめるよう手軽で誰もが知っているラジオ体操を推進するため、ラジオ体操指導者講習会や小学校区単位での巡回指導会を開催します。

併せて、子供にとってプロスポーツ選手は憧れの的であり、アスリート養成のための講習会等を開催するとともに、市民の期待の高いサッカー場の整備について調査を始めます。

教育の分野では、今後の生涯学習施策の考え方の基礎となる「生涯学習基本計画」を策定することとし、市民等からの幅広い多様な意見を反映させるための生涯学習基本計画審議会を設置します。

また、丹波の子どもたち一人ひとりが、夢と希望を持ってその実現に向け、勉強や運動など様々なことに対して意欲を持って頑張れるように、市民総がかりで進める教育環境づくりを目指してまいります。

地球温暖化防止を始めとする環境問題は、実は、私たちの普段の生活と深く関わっている問題でもあります。丹波市内の身近な施設

を題材とした学習教材を制作し、小学校3年生から4年生を対象とした環境学習にも取り組みます。

第4は「環境にやさしいまちづくり」です。

長年の懸案でありました新しいごみ焼却施設「丹波市クリーンセンター（仮称）」につきましては、地元はもとより関係各位のご理解とご協力をいただき、本体の建設工事に着手いたします。このことにより安全・安心な市民生活の確保と資源循環型社会への大きな一歩を踏み出しますが、引き続き、ごみの分別・収集カレンダーの配布、環境学習会の開催や資源ごみ集団回収事業への奨励金交付等により、更なるごみの減量化と再資源化を図ってまいります。

また、丹波市においては、人口減少に伴う森林や農地の維持管理などの社会的環境問題が広範囲で発生しており、今後、環境を活かした地域の活性化を進めないと、逆に環境が守れない状況に陥る危険があります。

そこで、農地、森林などの環境資源をフィールドに置き、環境保全や環境への貢献を考慮した体験型観光：エコツーリズムや新規性

や発信力を併せ持った新エネルギーなど「環境」をキーワードとしたグリーンビジネスの推進を図ってまいります。

さらに、省エネによる環境への配慮と防犯灯の長寿命化を図るため、防犯灯のLED化を推進します。

最後、第5は、「信頼される行政」です。

市民目線での行政サービスの向上や職員不祥事の再発防止に向け、職場研修、自己啓発等を通じ、市民から信頼される行政の展開を図るとともに、市政の現場を担う職員の発想力を最大限に引き出すための職場環境づくりを行い、仕事管理、人事管理などの総合的な能力向上をはかるように努めます。

また、より効率的、機能的な行政組織の再編に向けて、下水道事業における経理の明確化を図るため、公共下水道事業などの4事業について、平成26年度から地方公営企業法を適用した会計方式に移行するとともに、「丹波市組織機構再編方針」や「丹波市庁舎等整理統合基本計画」に基づき、上下水道組織の統合に向けた準備を進めます。

さらに、未曾有の災害をもたらした東日本大震災における被害状況を教訓に、国が戸籍の正本と副本の同時滅失を防止するための対策として、戸籍副本管理サーバを遠隔地にある管理センター（北海道の予定）に設置することに伴い、市においても、戸籍副本データ管理システムを整備し、国の管理センターとの連携を図ってまいります。

以上、市政運営の基本方針と重点施策の一端を述べさせていただきました。

◎ 平成25年度の会計毎の予算額としましては、

一般会計 3 6 2 億円

特別会計 1 8 7 億 8, 1 0 0 万円

公営企業会計 3 2 億 4, 1 0 0 万円

合計 5 8 2 億 2, 2 0 0 万円 を計上し、

前年度と比較しますと、予算総額で0.9%の増、一般会計においては4.6%の増となっております。

こうした考えのもと、この素晴らしい丹波市において、ますます市民、地域、団体、企業等の様々な活動がますます躍動できる基盤づくりを行い、皆様とともに未来に期待のもてる確かな歩みのなかで、「誇りのもてる住んでよかった丹波市」を作っていきたいと決意をいたしております。

どうか、議員各位をはじめ市民の皆さまには、一層のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げ、私の施政方針といたします。

ご清聴ありがとうございました。